

一・千葉県における企業と自治体のSDGsの取り組みの現状

株式会社千葉銀行が二〇二一年

九月に発行した「千葉県におけるSDGsに関する取り組みの現状と課題」の調査結果によると、千葉県の企業によるSDGsの関心度は六六・三％である。既に取り組んでいる目標（実施検討含）としては目標三「健康と福祉をみんなに（五八・三％）」、具体的な取り組みは「本業を通じた社会課題解決（二五・二％）」がそれぞれ一番多くなっている。千葉県の企業のSDGsの取り組み割合は二四・九％で、全国平均（三九・七％）や近隣県（神奈川県、埼玉、茨城）と比べて低くなっている。そして、大企業に比べて中小企業のSDGsに対する取り組みの遅れが目立っている。千葉県の企業におけるSDGs実装の課題

としては、「意欲は高まっているが、社内でノウハウや人材が不足している」となっている。

また、千葉県の自治体におけるSDGsは七割強が推進（予定）

をしており、推進意欲は全国並みとなっているが、近隣都県と比較すると低い。自治体としては、特に力をいれてきた（今後とも焦点を当てたい）SDGsの目標として、目標一「住み続けられるまちづくりを」が一番多く、次いで目標三「全ての人に健康と福祉を」や目標四「質の高い教育をみんなに」となっている。SDGsの推進に当たっては、「実際にSDGs活動を推進する体制には整っていない」や「総合計画や施策、事業に具体的に落とし込めていない」ことが課題となっている。

千葉県の企業や自治体によるローカルSDGsへの取り組みへ期待することとして、官民の連携・

協働や経済・社会・環境の領域を俯瞰した新たな価値やビジネスの創造が挙げられている。そのためには、SDGs目標一七に掲げられている「パートナーシップで目標を達成しよう」が重要であり、「ちばSDGsパートナー登録制度」の果たす役割は大きい。

二・ちばSDGsパートナー登録制度の概要

SDGs一七個の多くの目標を同時に達成していくためには、異業種の機関や組織が分野横断的に取り組んでいくことで、あらたな発想と創造の相乗効果で地域の課題解決につながっていくと考えられる。そのため、組織や機関が相互の課題意識を共有しながら連携・協働していくことが求められる。

また、異なる組織や機関による地域社会のパートナーシップを促すためには、SDGsに対してどのような課題をもって取り組んでいるのかについて相互に把握することが重要である。千葉県では、SDGsの認知度向上、その普及啓発を促進するためやローカルSDGsの連携・協働による課題解決を促進すべく、「ちばSDGsパートナー

登録制度」を実施している。

千葉県の「ちばSDGsパートナー登録制度」では、「千葉県内に事務所等を置く企業、団体、教育機関、学校法人、特定非営利活動法人、個人事業主等を対象」とし、「登録はSDGsの達成に向けた活動に取り組んでいる、または取り組む意欲のある企業・団体等のうち、次の各号のすべてに該当するもの」となっている。

(一)環境・社会・経済の三側面において、具体的な取り組みを推進すること。

(二)各取り組みについて、具体的な目標が設定されていること。

(三)登録を受けようとする者が暴力団員等に該当しないこと。

登録することのメリットとしては、「千葉県や企業・団体のホームページ等で紹介し、取り組みのPR」、「チーバくんを活用した千葉県SDGsシンボルマークを名刺や会社案内へ使用」や「ちばSDGsパートナー支援資金による低利の県制度融資（審査有）」による支援が挙げられる。

今回は、千葉県のちばSDGsパートナー制度のウェブサイトに登録されている情報から把握可能

